

「はあっ、寒いっ手が冷えちゃったよ
六花はその恰好で寒くない？」

「私は室内にいたから別に…
裕太は寒いんだ、手」

「う、うん…」



「手あつたためてあげようか
……脚で」

「え、脚って……」

「……」





ドキレ

「.....」

「.....」

ドキレ
ドキレ

（六花の太もも

柔らかか…それに凄い温かい…

つていうかなんだこの状況…

正直ムラムラしてくるんだけど…）

「あの…六花？

もう十分手は温まったから…

その…手を…」

ドキレ
ドチレ

ドキレ



「あの…六花…？
手が取れな…」

「……」

ドキレ

ギュッレ

むにっレ

ドキレ

こ



「このっ！このっ！
また誘惑してっ！」

あっ♡

「ごっごめんなひゃい♡
裕太を誘って♡ごめんなひゃい♡」

おっ♡
パンツ

あっ♡
パンツ

「裕太とラブラブえっち♡
おねだりしてごめんなさい♡
あっ奥♡奥にキスしてるっ♡」

おね♡

パンツ

ズチゅ♡

ズチゅ♡

「わかったか！」

六花の太ももで誘惑したら

俺はこんなになるんだからな！」

あっ♡

パンツ

ズチゅ♡

ズチゅ♡

「わかった♡もうわかったから♡
オマシゴでちゃんとわかった♡
ああ好き♡裕太すきいいいい♡」

おネ♡

パンツ



「ああ射精るっ！
子宮に注ぎ込んでやるぞ
六花！」

あゝパンッ

「射精して♡私の子宮♡私のおっきいお尻♡
裕太の赤ちゃん産むためのものだって
わからせてええええ♡♡♡」

おネ〜♡

ズチゅ♡

ズチゅ♡





